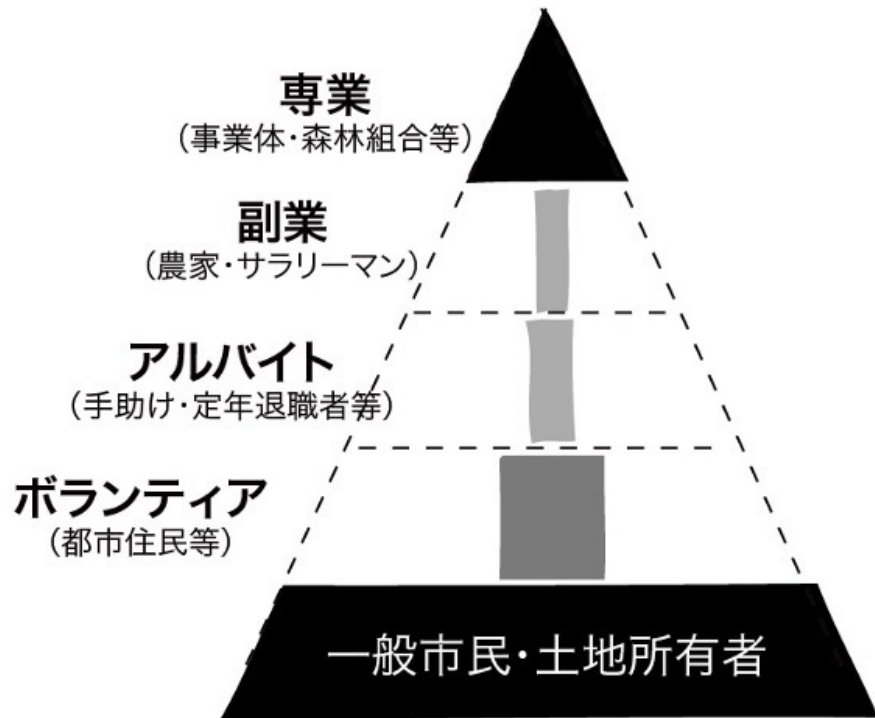


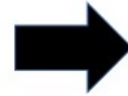
欧州森林林業調査報告 2025



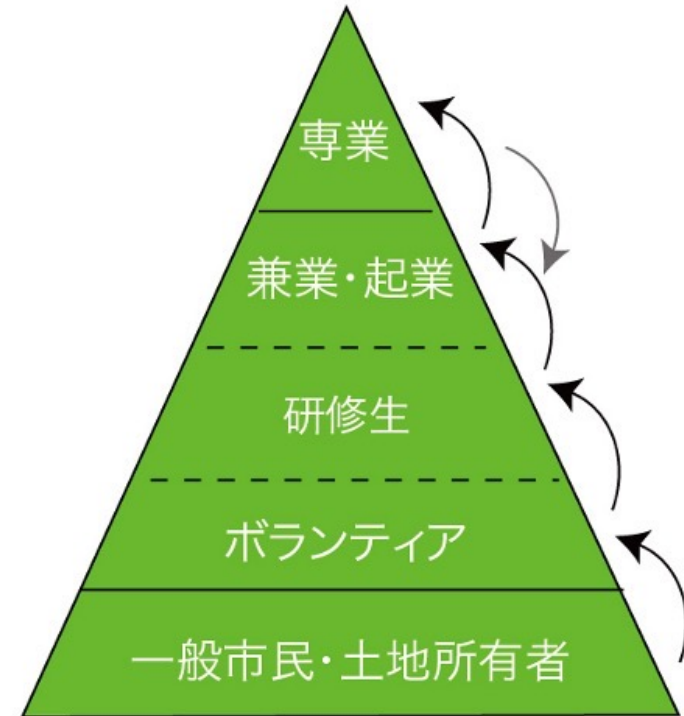
これまでの林業



「山林所有者は意欲がない」
主業へのステップが見えづらい



自立・自営の自伐型林業

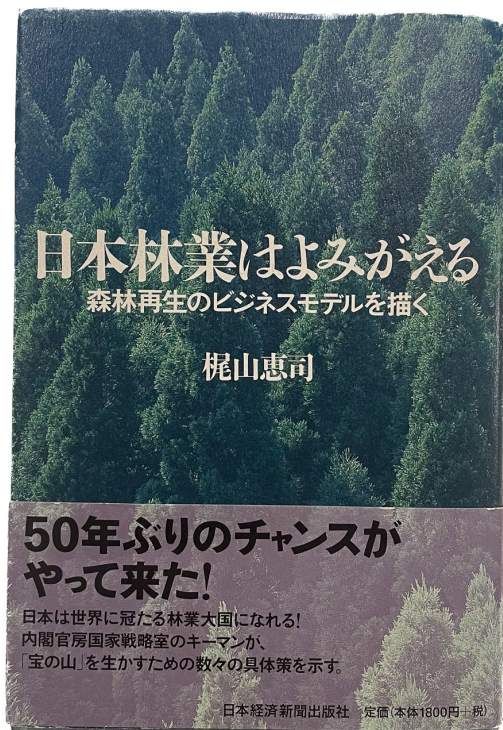


自伐型林業のステップアップ
病気やケガがあれば都度ダウンしてもOK





きっかけ



- 「日本林業はよみがえる」 (梶山恵司,2011)
- 日本の林業は問題、日本の林業は遅れている
- 「オーストリア林業は強い競争力を有している」
- 高性能林業機械を称賛
- 「日本で林業を成立させるために必要なことは個別施業への補助金を廃止し、施業集約と路網整備を前提としたものに抜本的に組み替えるべき」
- 「森林・林業再生プラン」のはじまり

あれから11年

- 「フィンランド 虚像の森」 (2022)
- 自伐協が見てきた日本の山林と重なる
- 高性能林業機械と林業政策が悲惨な森を生んだ
- 林業先進国の”今”はどうなってるんだろう



目的

「自伐型林業」の当初 → 切り捨てられた「自伐」の動き

生産性と合理性の論理

（考えを輸入した先の）欧州先進地は今どうなっているのか

高性能林業機械を導入したあとの森林は？

ドイツ・オーストリアを見る





2023年





リンナ・イーバ

- ・「数百年前からここで暮らしてきました。農家としては15世紀から続いています」
- ・ 16haの山＋約40haの牧畜場
- ・ （※同州の北部の平均所有面積は40～50ヘクタール）
- ・ 夫婦と息子の3人で農業と林業を営む。乳牛30頭＋肉牛60頭
- ・ 約8割は針葉樹でトウヒとカラマツ主体。
- ・ 農業用のトラクターに、アタッチメントを取り付け、自分で伐採した木材をす自伐林家。
- ・ 「収入は年によって違います。だいたい3分の2が農業で残りが林業。木材の値段が良い年は逆になります。木材の搬出量も変わり、350立方メートル出すときがあれば、20立方の年もある。今年のトウヒは安い（通常は立方あたり120～150ユーロのところ90ユーロ）から、あまり伐らない予定です」

自伐林業

基本スタイルは
チェーンソー
ウィンチ
トラクター（動力）



自伐林業

技術よりも大事？
自分で機械メンテで
節約の林業家たち



300年続く
農家林家のライフスタイル





ヨハン・オーファ

- ・ 18世紀から住み始め、生活の基本は農業。100年ほど前から、樹木を伐採したり販売したりするようになった。
 - ・ 所有山林は約45ha+牧草地。
 - ・ 8割はトウヒとモミの針葉樹で、カエデとサクラ等の広葉樹も。年間の木材生産量は300m³程度。
 - ・ 平均樹齢は80～100年程度。
 - ・ ほかに50立方メートルをエネルギーの熱利用に生産。
- 「設置費用は2年もかからずに回収できてしまう。それほどエネルギー価格が高騰している。これからは何でも自分で作らないと生き残れない。こういう時代だからこそ、エネルギーも食料も、自給自足に戻そうとしているんだ」

地域エネルギー自給と
戦争で見直される
森林資源

オーストリア
シュタイーマルク州
レオーベン協同組合





シュミット 森林組合ヘルパー

レオーベン県：人口約59,213人（2024年）
林業者・組合員数：485人
面積：1万7000ha（県土面積約10万ha）
年間生産量：14万6000立方（一人当たり平均301立法）

- ・ 組合員485人のうちすべて施業を委託する林業者はわずか3人。約99%が自伐林家。
- ・ 林業者の選択を尊重するが、皆伐はさせない。相続税支払いなど一時的な金銭が必要な時は伐採させずにお金を貸すこともある（森を守る）。
- ・ 皆伐は2ha以上は禁止。それより小さくてもできるだけ禁止させている。法律違反をすると森林組合にも罰金がかかる。
- ・ 森林組合の役割は相談にのる、高く売る。

自伐の村

6000人の村の
150人の自伐林家たち
小さな林業がたくさんあった

「農業は楽しい。良いウシが
育てられれば自分の誇りにも
なる。何よりスーパーで買う
よりも、自分で作ったほうが
美味しいものが手に入るだろ
う」（ヨハン）



オーストリアで見たもの（基本は皆伐しない）



オーストリア・ドイツで気になったこと)

キクイムシの被害？

風倒木が大変？

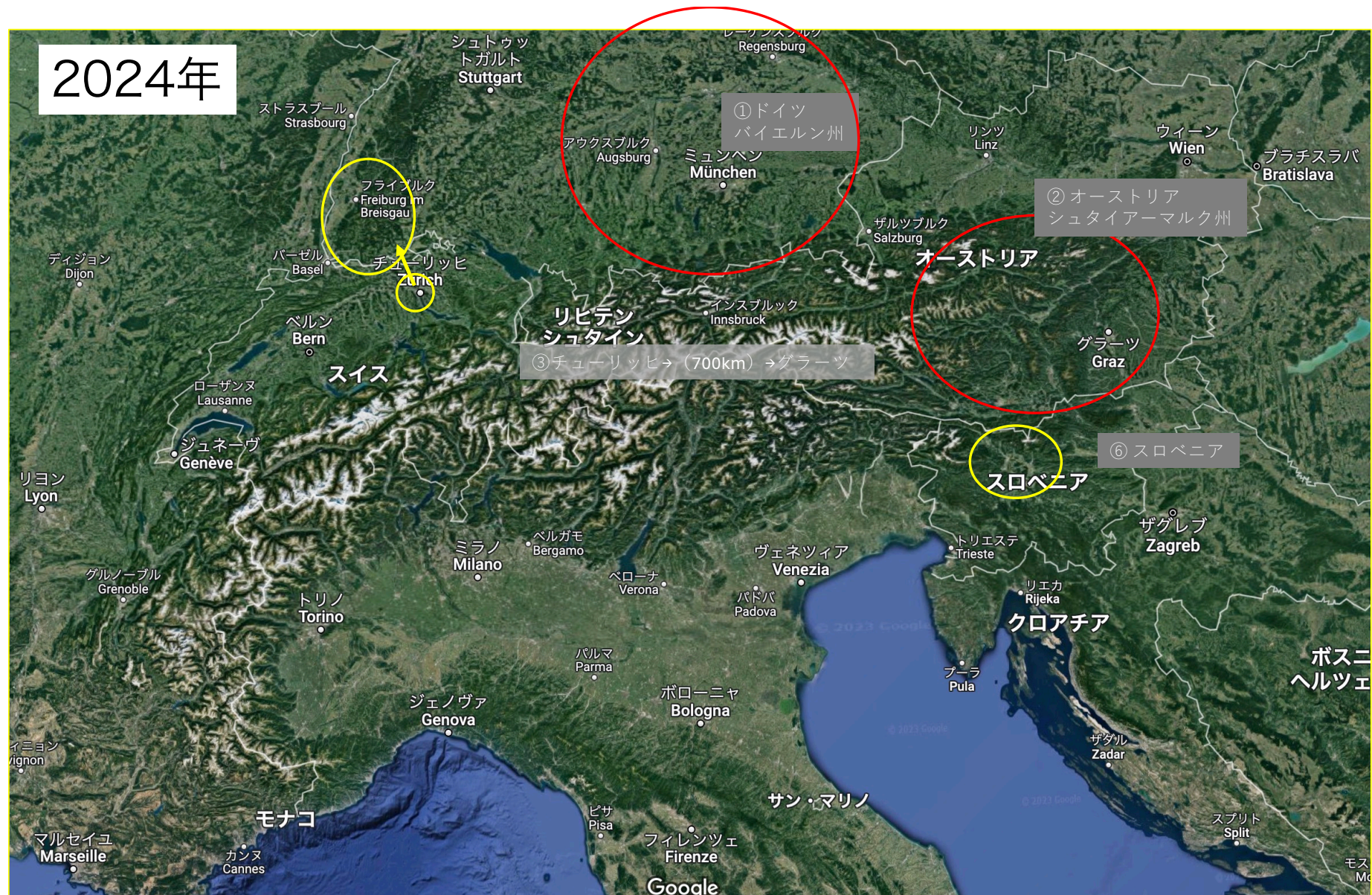
高性能林業機械に頼る大規模林業も？





スイスは林業はやってない？
時給4000円の特殊事情

2024年



気になったこと

- キクイムシの被害？
- 風倒木が大変？
- 高性能林業機械に頼る大規模林業も？
- 農業（葡萄）と林業の兼業





ドイツ
バイエルン州



ドイツ
バイエルン州



ドイツ
バイエルン州



ドイツ
バイエルン州



ドイツ
バイエルン州



ドイツ
バイエルン州



ドイツ
バイエルン州



ドイツ
バイエルン州

ドイツ オーストリア の特徴

自伐林家の多くは兼業型。

小型機械よりも大型機械。（トラクターも大型）

ハーベスター大好き。

キクイムシ、風倒木でさらに進む。

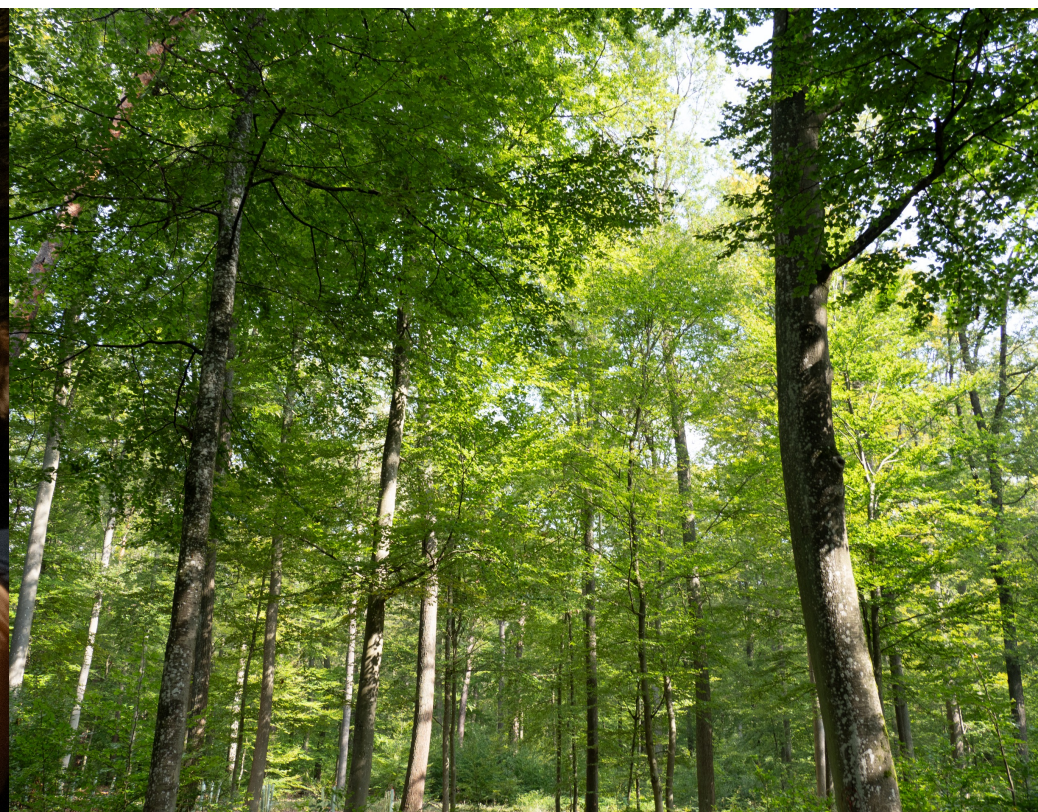
「自伐」から「委託」へ変化。

作業員は3Kの職。州だけで年間約20人死亡。（シュタイヤーマルク）

フォレスター（森林官）の「高水準」教育＝言っていることがみんな一緒。

「天然更新」を目指して強度間伐。

作業道は林業専用道で「壊れない道」とは違う。



800年の歴史を持つ「フューアシュリッヒ・カステル」
70haのブドウ畑から年間40万本のブドウを生産
1000ヘクタールの森林を保有する大地主
林業×ワイン×銀行



山主：カステル男爵
山守：クリストファー・マン

- 160年前に成長が早いトウヒを植林。
- 1990年には大規模な風害が発生し、たった1日で11万m³が倒木。「私たちの森の7年間分の木材生産量」「まったく新しい森をつくることに決めました」。
- 「人間が原因で起こした問題は、人間が解決しなければならない」
- 「ドイツは環境規制が厳しく、何でも『自然のままにした方がいい』という方針だが、気候変動に耐える森に」
- 「ブナは暑さに弱い。私が大学に通っていた時、この地域の年間の平均気温は7.5～8.5度で、降水量は650ミリでした。それが今では平均気温が11.5度に上がり、雨量は450ミリに減っています。今後もこの傾向が続くことが予想されているので、高温と乾燥に強い木を育てなければなりません」





奈良県川上村 岡橋清隆氏 撮影：高木あつ子



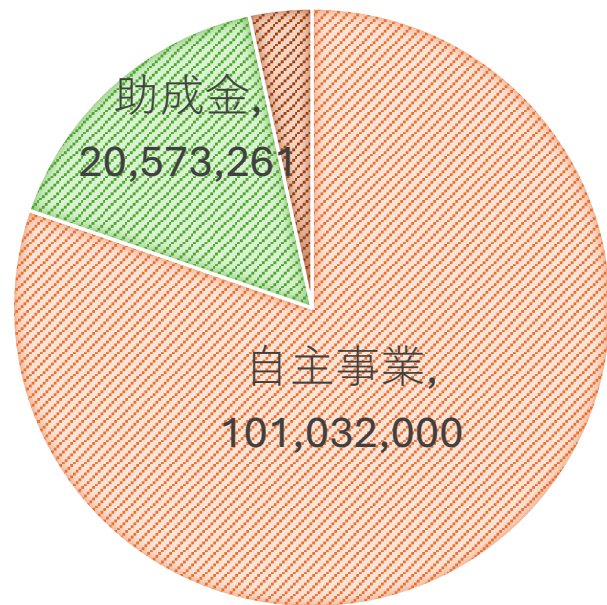
徳島県那賀町 橋本光治氏 撮影：高木あつ子

- 1) 自伐林業運動は、世直し運動という面を強く持っている
 - 2) 「大きいことはいいことだ」「速いことはいいことだ」といった近代的価値観に強い疑問を持っている
-
- 3) 林業を産業としてだけでみるのではなく
地域や環境（公益）を強く意識し、副業を大切にする
 - 4) 自分で試行錯誤しながら体得していく
（疑問があってはじめて勉強する）
 - 5) 横のネットワークを大事にする



2023年

自伐型林業推進協会



2023年度（単位：円） | 合計 12,585万円

- ビジョン：持続可能な環境共生林業の実現
～林業就業者の5割以上が自伐型林業に従事し
日本の林業の主流となる～
- ミッション：自伐型林業普及推進を通じ
以下の社会課題解決を目指す。
 - ① 過疎地域の再生
 - ② 土砂災害の防災・減災
 - ③ 複業型ライフスタイル構築

①普及活動

- 自治体創出
 - 全国20自治体（自主事業）
- 講師養成、企業連携



②中間・仲介支援事業

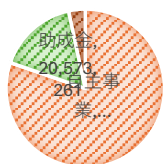
- 地域組織の育成（休眠預金、パタゴニア）



③情報発信・啓発活動

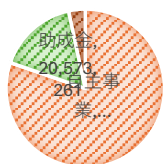


自伐型林業運動



1 億円

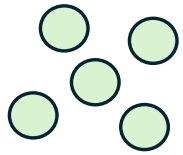
自伐型林業運動



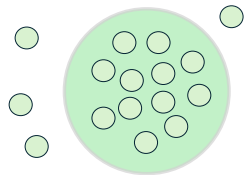
1 億円

大規模皆伐林業

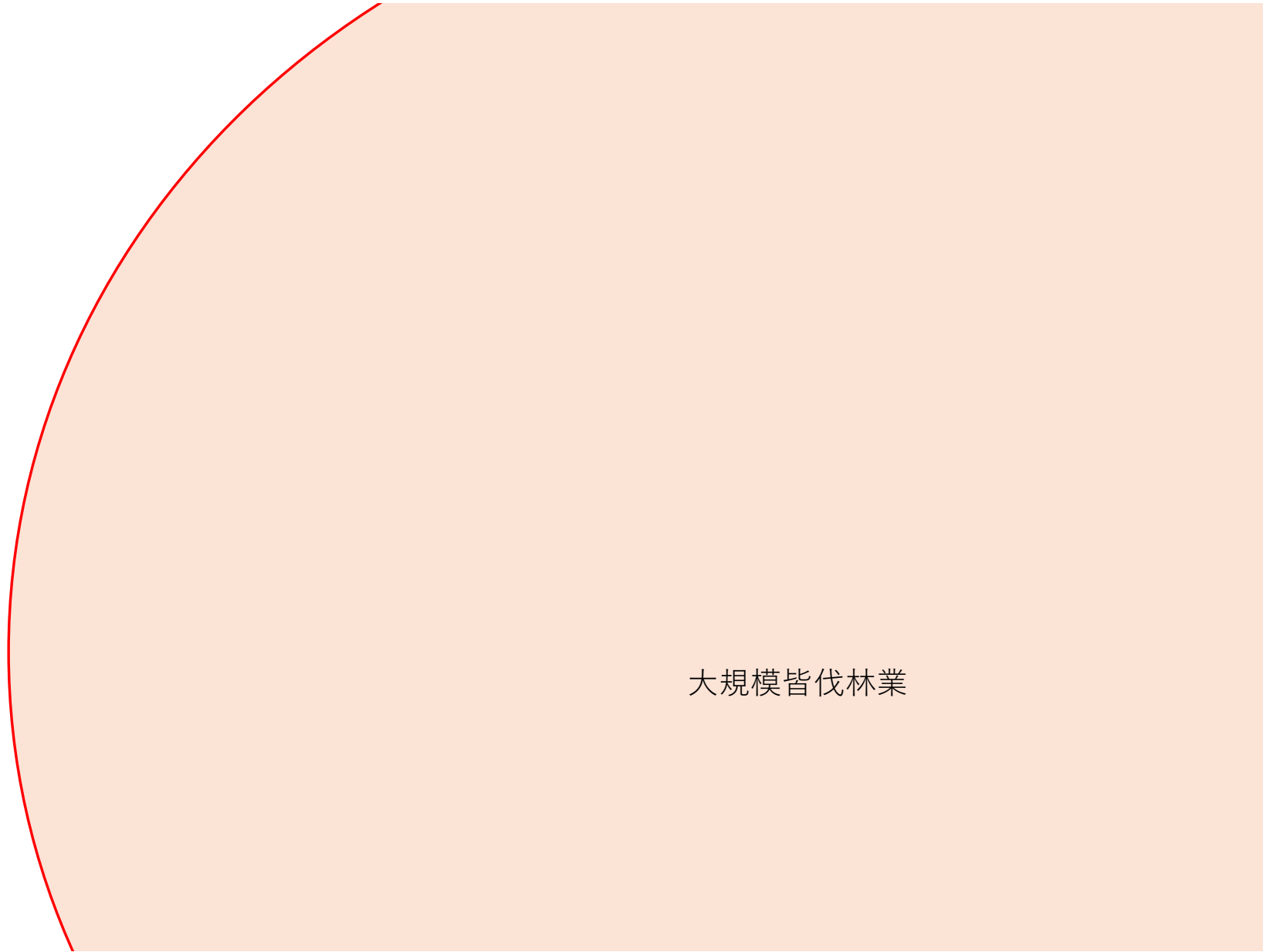
1 億円



自伐型林業運動

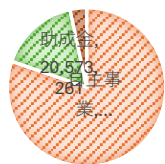


1 億円



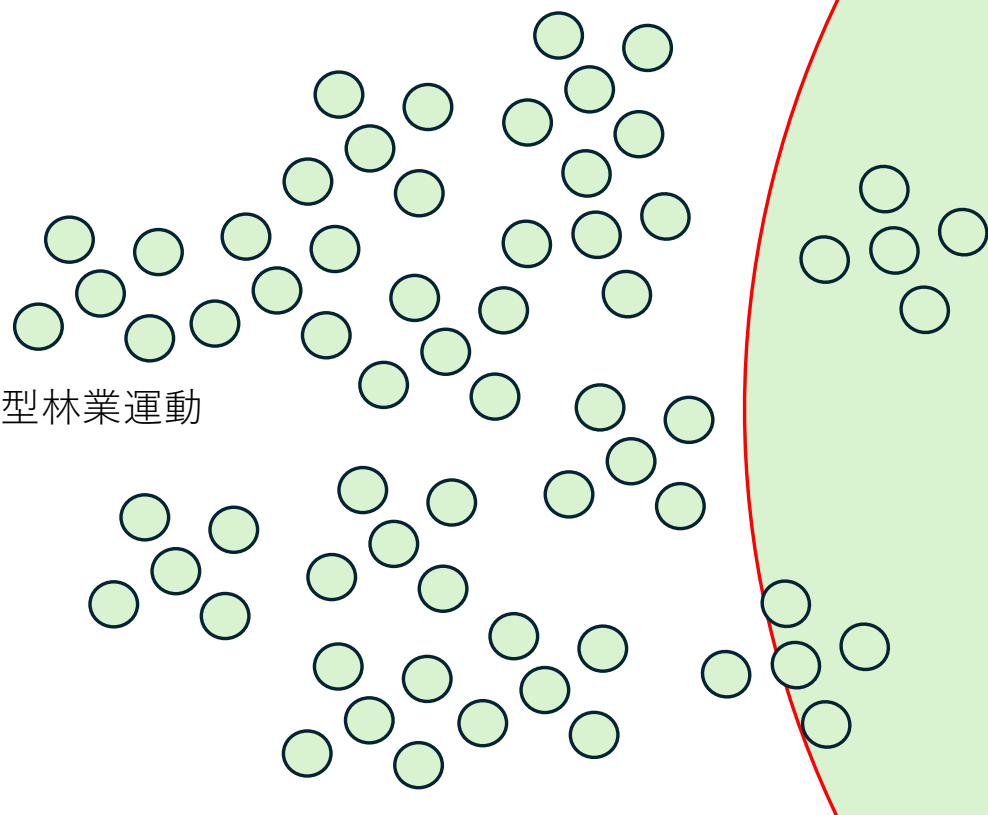
大規模皆伐林業

自伐型林業運動



大規模皆伐林業

自伐型林業運動





自伐型林業運動

